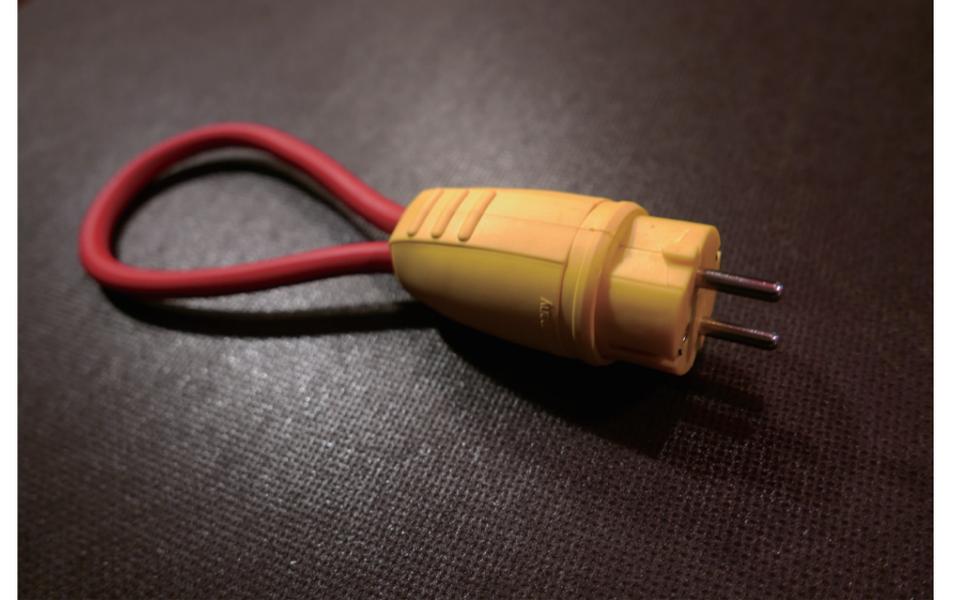


ライナー・プロハスカ Rainer Prohaska

プロジェクト
Project

Tomorrow



参考作品《Unplugger》2002-19年 / Reference artwork, Unplugger, 2002-19

©Rainer Prohaska

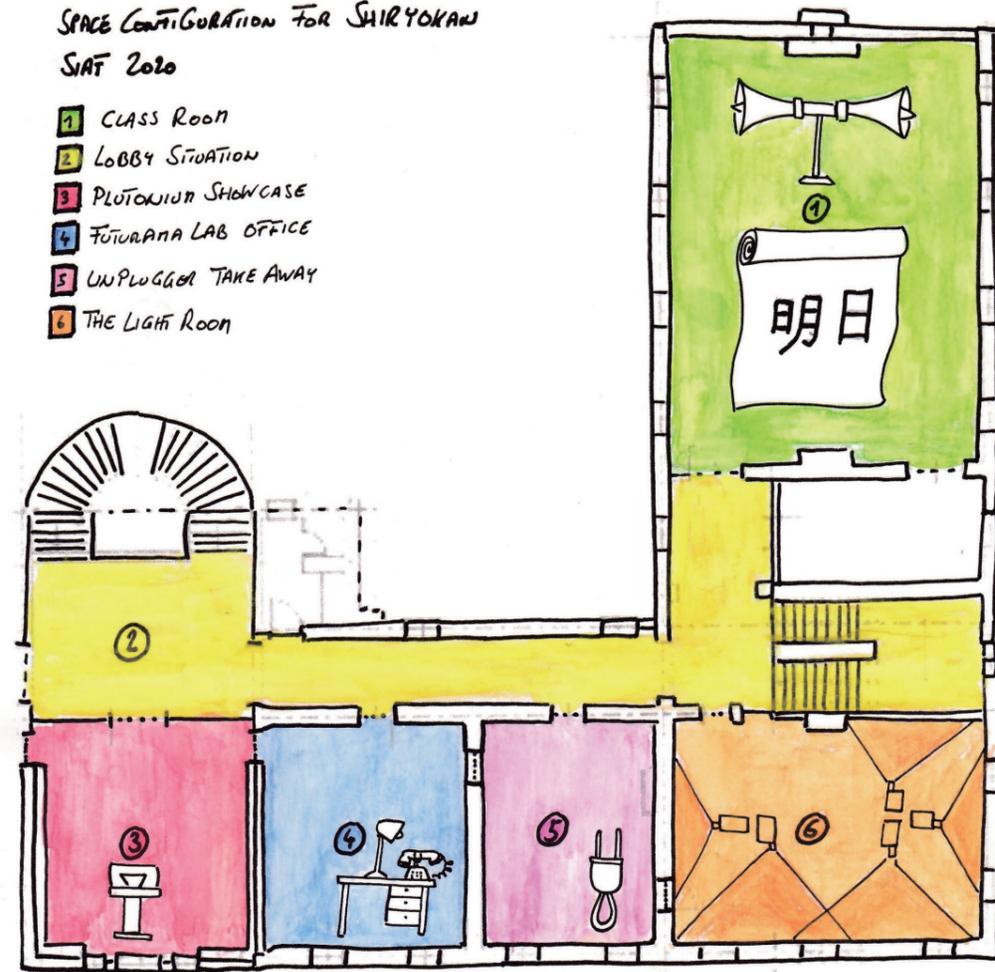
FUTURAMA LAB

明日 TOMORROW

SPACE CONFIGURATION FOR SHIRYOKAW

SIAF 2020

- 1 CLASS ROOM
- 2 LOBBY SITUATION
- 3 PLUTONIUM SHOWCASE
- 4 FUTURAMA LAB OFFICE
- 5 UNPLUGGER TAKE AWAY
- 6 THE LIGHT ROOM



札幌市資料館(旧札幌控訴院)2階北側5室を使った展示案
Exhibition concept of Shiryokan (Former Sapporo Court of Appeals), using the five rooms on the north side on the second floor

〈FUTURAMA LAB〉はプロジェクトであり、
アートが現実においていかに重要かを語りあう場でもあります。

Room #5

Unplugger Workshop

《Unplugger》は彫刻であり、エネルギーの浪費を解消するための装置でもある。鑑賞者は、この小さな工場(展示会場)で《Unplugger》をつくり、自身のものとして持ち帰ることができる。

An *Unplugger* is a sculpture and as a sabotage device, that offers a solution in situations of energy waste. In this small factory, the audience can produce a countless number of *Unplugger*, so that each visitor can have his own.



参考作品《Apparat》2017年 / Reference artwork, Apparat, 2017

©Rainer Prohaska

タイトル《Tomorrow》は、SIAF2020のテーマの一部である「ここで生きようとする」に対する解釈を込めてつけました。札幌市資料館(旧札幌控訴院)2階の5つの部屋と廊下を展示会場として、私の伝えたいテーマと作品を関連付けて展示する予定でした。まず「Plutonium Showcase(左図③)」という部屋では、ほぼ誰もそのかたちを見たことがないであろう原子力発電の廃棄物、プルトニウムの模型を展示しようと思っていました。「Unplugger Workshop(⑤)」という部屋には、《Unplugger》というソケットを置くつもりでした。これは、私たちの膨大な電力消費に注目してもらうためにつくった装置です。ソケットから出ているケーブルが両極に入っているため、コンセントに差し込むと部屋の電気はショートしてしまいます。「Light Room(⑥)」には、札幌の夜景を撮影した写真を展示したいと考えていました。札幌市民の方々に「光が強すぎる」と思った夜景の写真を送ってもらうのです。そうすることで電力の無駄使いを視覚的に示せたでしょう。「Class Room(①)」では、音のオン・オフをセンサーではなく、大きなスイッチを使って鑑賞者が手で切り替えるインсталレーションをたくさん設置したいと考えていました。2020年の春に経験したロックダウンの期間中に展示コンセプトを変更した「The Artist is [Almost] Present(④)」という部屋は、〈FUTURAMA LAB〉によるリモートワークを紹介する場になるはずでした。〈FUTURAMA LAB〉は、私が以前から取り組んでいるプロジェクトで、アーティストや科学者、哲学者などが、アートが現実においていかに重要であることを語りあう場でもあります。私はウィーンにいながら、高速のインターネット回線を使い、この部屋で絵を描く予定でした。

ライナー・プロハスカ

1966年、オーストリア生まれ。同地を拠点に活動。日常の物や現象に目を向け、ユーモアたっぷりにアートの世界に落とし込んだ作品を制作。2002年からは、アートを通して生態学とサステナビリティ(持続可能性)に関する問題を提起するプロジェクトに取り組む。

Rainer Prohaska

Born 1966 in Austria. Lives and works in Austria. He appropriates everyday phenomena and objects, and inserts them into artistic contexts in a humorous and critical way. Since 2002, he has been working on projects that engage with issues of ecology and sustainability through art.

→
インタビュー動画はこちら
Watch the video interview.



